

令和2年【第1回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

令和2年1月(次回調査は令和2年7月予定)

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感(被災者の生活の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感(地域経済の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度及び直近6ヶ月間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 81.7%(125名/153名) <前回 77.1%(令和元年7月調査)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	88	70.4%
女性	37	29.6%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	43	34.4%
沿岸南部	82	65.6%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	8	6.4%
40歳代	26	20.8%
50歳代	48	38.4%
60歳以上	43	34.4%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	71	56.8%
被災なし	51	40.8%
不明	3	2.4%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など) 48名(38.4%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など) 34名(27.2%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など) 43名(34.4%)

■参考■

○「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。

「進捗状況」とは、直近6ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。

○沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、

沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 調査結果の集計・分析にあたっては、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が45.2%と、前回(40.2%)を5.0ポイント上回った。また、「回復した」「やや回復した」の合計も88.7%と、前回(86.4%)を2.3ポイント上回った。

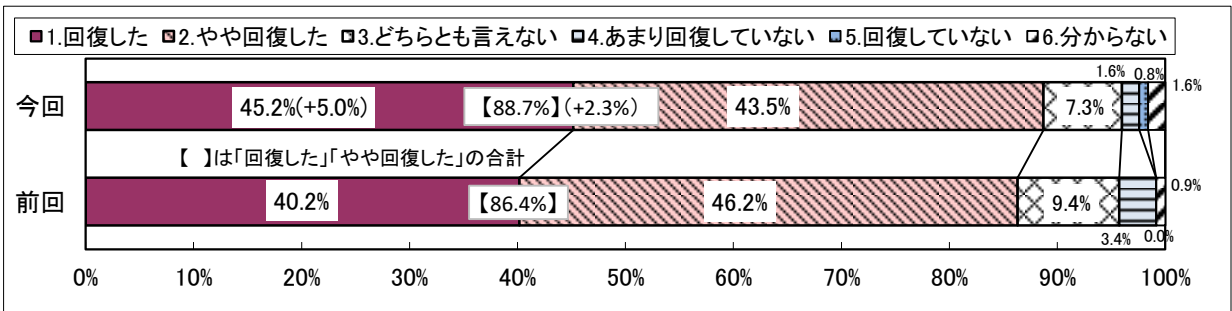
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部で51.2%と前回(50.0%)を上回り、沿岸南部でも42.0%と前回(35.4%)を上回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で83.8%と、前回(92.1%)を下回り、沿岸南部では91.4%と、前回(83.5%)を上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は7.6%と、前回(8.6%)から縮まった。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」が35.5%と、前回(35.9%)とほぼ横ばいであり、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計は70.2%と、前回(77.8%)を下回った。

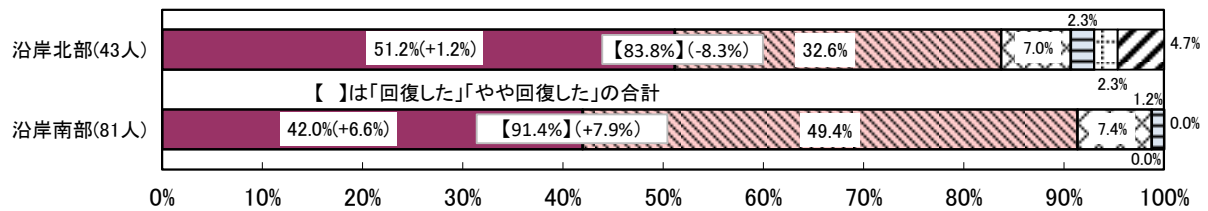
沿岸部における全ての災害公営住宅の完成や多くのまちづくり(面整備)事業の完了により、住環境が改善されたとの声が多くある一方で、新たなコミュニティ形成や今後の経済面を課題とする声があった。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

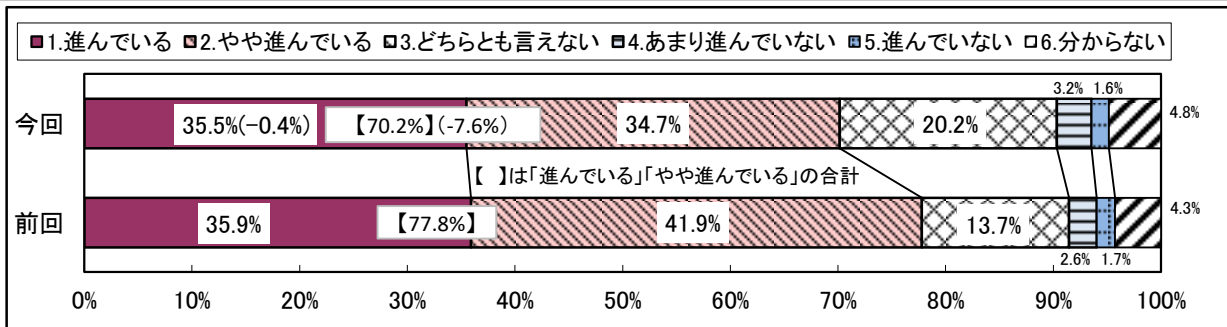


地域別

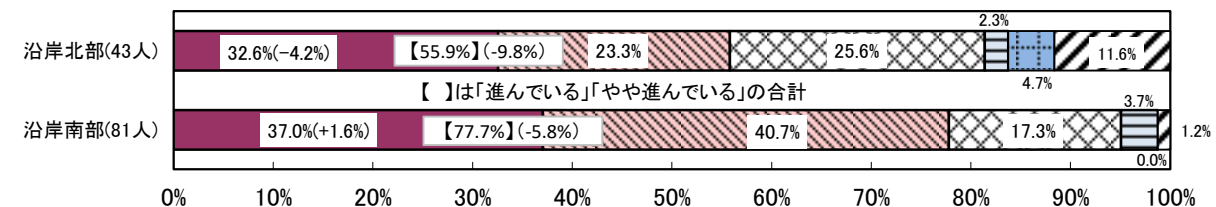


② 直近6ヶ月間(おおむね7月から1月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆住環境は自力再建、災害公営住宅への入居、三陸鉄道、三陸自動車道等の開通、防潮堤は近々完成、消費受入のチェーン店の進出と被災前の環境を追い越す勢いではあるが、それに伴う雇用の創出は足踏み状況と思う。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆被災した方々がほぼ自宅を再建、災害公営住宅への転居を完了している。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆地域の被災者の防集での移転が完了し軒並新築の住宅が建っている。仮設住宅があったところは更地になり防集で整備されている地区の一角に屯所や地域公民館も建ち、公民館活動もなされている。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆生活が落ち着いた雰囲気がある。笑顔に不自然さがなく、心から笑えるようになってきている。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆震災前から行われていたイベントに加え、にぎわい復活のための新イベントも企画され、多数の来場者の参加を得ている点などを見ると、被災者の生活もかなり回復してきていると感じる。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆災害公営住宅の建設も終了し、仮設住宅での生活者もほほいなくなっている状況がある。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆職場で震災については話することはタブーとされていた感じはあったが、被害に遭っていない私にもボツリボツリと震災の話をしてくださるようになった。その人の心の方も話すことが出来る状況になってきたのかもしれない。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆日に日に、最重要課題である自力再建が進み、住宅戸数も増え、新たな街づくりに向け着実に前進している。一方、災害公営に入居している方々は様々な地区からの集まりであるためコミュニティ形成が思うように進んでいない。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆高台への移転がだいぶ進み住居に関しては落ち着いているが、住居と商業施設などの距離が離れ、自動車がなければ生活に支障をきたす状況。小学校の移転、道路工事などで今まで徒歩での登校が車になった。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆仮設住宅も集約されてきた。建設業の方々が新築物件が少なくなってきたという話をよく耳にすることから、仮設を出て住宅を再建できた方々がだいぶ増えたのだと思う。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆雇用の数値は良いが生徒数の減少により地元就職の人数が少なく地元経済に不安。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆高台造成地の完成により住宅再建が進んだ一方で区画整理の遅れから再建の目途が立たず、仮設での生活を余儀なくされている。また、土地の換地・引き渡し遅れから生活の場を他所に決め、換地後の土地が空地となるケースも少なくない。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆新しい道路が完成したり、災害公営住宅が完成したりハード的な生活基盤は整い、便利になっている。しかし、災害公営住宅に空きが多いと聞いたことがあり、一方で住宅を探している人もいる。(39歳以下,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆フラッシュバック等精神面については、不安定なままだと感じる。(特に大人)(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆まだまだコミュニティ作りは進んでいないと思う。地域力をつけるためにもコミュニティ作りの取組に力を入れることが求められていると思う。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆住宅事情は確かに良くなってきていると思うが、人口減少や経済的な面で苦慮している人々がいることを考えるとどちらとも言えない。(60歳以上,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆当市は区画整備事業が遅れ、今だに仮設住宅に入居されている方々が一部見受けられる。また、一部の自立再建の予定者は、それぞれの理由で未だに仮設住宅住まいである。その方々のほとんどが3月末日をもって仮設からの退居が決められており、苦心されている方もいる(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」が19.4%と、前回(23.1%)を3.7ポイント下回った。また、「回復した」「やや回復した」の合計も57.3%と、前回(63.3%)を6.0ポイント下回った。

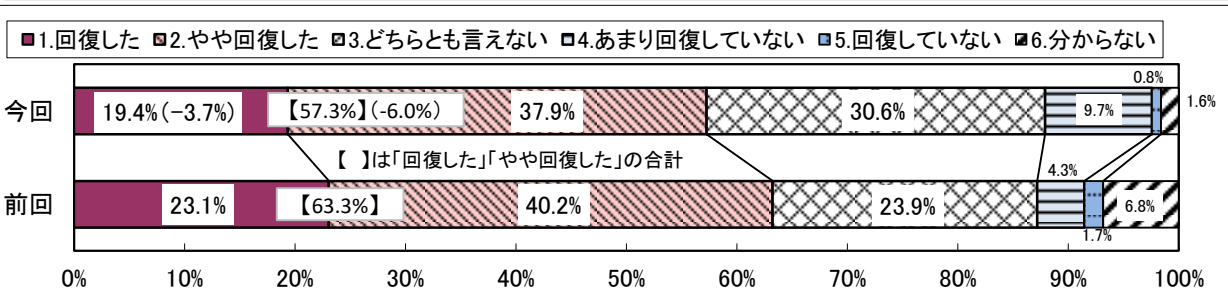
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部で23.3%と前回(29.7%)を下回り、沿岸南部でも17.3%と前回(20.0%)を下回った。「回復した」「やや回復した」の合計も、沿岸北部で62.8%と、前回(67.5%)を下回り、沿岸南部でも54.3%と、前回(61.3%)を下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は8.5%と、前回(6.2%)から広がった。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んだ」が13.0%と、前回(17.1%)を4.1ポイント下回り、「進んだ」「やや進んだ」の合計も43.1%と、前回(52.1%)を9.0ポイント下回った。

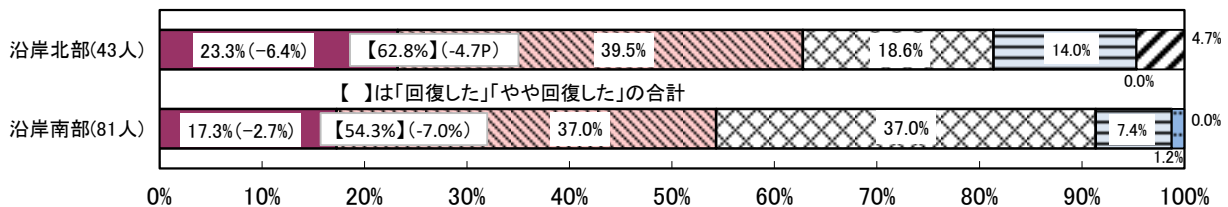
道の駅や商業施設のオープン、大型イベントの開催による観光客の増加を実感する声がある一方、記録的な不漁による水産業への影響や復興事業の終了に伴う地域経済の減速、三陸鉄道の一部区間運転見合わせなどの令和元年台風第19号災害による影響を心配する声があった。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

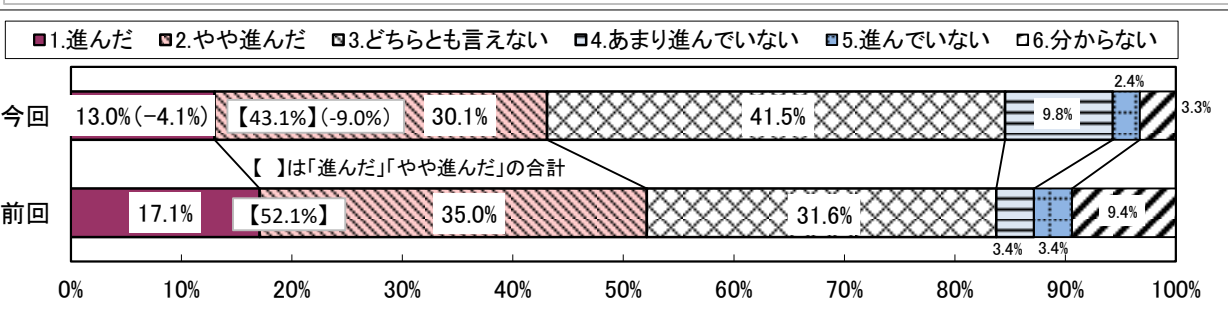


地域別

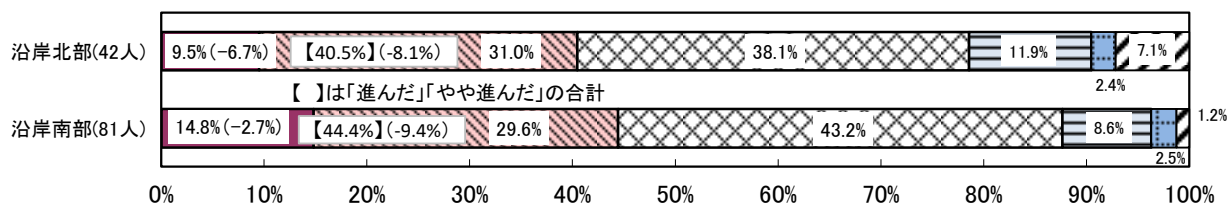


② 直近6ヶ月間(おおむね7月から1月まで)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由</p>	<p>◆地域の農業への取組は従来通りの意識を持っているが、新たに取り組んだもの(加工トマトなど)は減少中の現状にある。原因は、補助金などがあっても利益性が伴わないことや、労働者の高年齢化、労働意欲の低下などが挙げられる。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆地域経済が震災前に良かったわけではない事を考えると回復していると思われる。ただし、水産業については非常に心配されるほどサケ・アワビ等の漁獲量が減っており、地元漁業関係者から生活が大変である話を聞く。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆ラグビーワールドカップの開催により鶴住居地区の商業施設及び公共施設が増え、にぎわいを感じた。甲子柿ブランドも少しずつ定着してきているが、もう少し日常的に購入できるような値段にならないと普及は難しいのではないかと。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由</p>	<p>◆工事は徐々に進んでいるものの年数が経過し、なりわいの再生をあきらめる方々も本市には多く見受けられる。再建を諦めた方々の用地の活用が大きな課題となる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆昨年、道の駅がオープンし市内外より人が来るようになったと思う。地域経済の回復としてはやや進んだと思われるが私の住んでいるところはまだまだと思う。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆仮設店舗から本設へと移った業種、また新規スーパーの完成等、徐々に前進していると思う。一方で水産業はマスコミ等で報じられている通り、不漁による厳しい状況にあり今後の回復が懸念される。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆釜石市だけに限ると三陸道の開通や三陸鉄道の全線復旧など、インフラが回復した事により以前よりも近隣地域から観光客が来ているのは実感している。その一方で人口流出が続いており、地域経済に与えるダメージが大きく深刻な問題だと思っている。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆復興工事による震災バブルもほぼ終わった。水産関係はサケやイカ・サンマ等の不漁により深刻さが増しているようだ。沿岸地区においては、水産業の充実(魚の水揚げ、それに伴う水産加工等)は死活問題であることから、国・県等の対策は重要である。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆商工業者の仮設から本設への動きはだいぶ進んできているが、町の基幹産業である水産業者に影をおとす不漁問題、復興工事減少に伴う土木工事関連業者の業況低迷など地域経済は下降期に差し掛かっている。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆三陸沿岸道路の開通で田老地区は通過地になる。車の交通量は半減することが予測され、市街地中心部の道の駅や商業、サービス業者には大打撃となる。加えて復興事業関連の建設会社の出先事業所が撤退する。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆魚が獲れないという現状が大きな問題となっていると思う。農産物については、地元ブランドの野菜や果物も登場し今後のPR活動にも期待したい。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆人口流出による人手不足が顕著に出て来ている。事業を拡大できず維持できない事業主が増えている。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆中心市街地への店舗、事業所の再建はある程度進んでいると感じる。観光施設の完成もあり、県内外から多くの観光客が訪れている一方で、市街地との往来に課題があると感じる。主要道路が整備中という要因があるが、魅力あるまちづくりに向け行政と民間の連携強化が必要である。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆漁協の販路が被災前の6割程度までしか回復してない。水産物の価格高騰によりそれを補っている。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆水産業は回復していると思うが、資源の面で十分な回復とはいえない。商業施設の建設は良くなっていると思うが自動車道が出来ていくことで、良い影響ばかりでないことが予想されるとどちらとも言えない。(60歳以上,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆基幹魚種であるサケ、スルメイカ漁などが不振続きで、定置漁業の経営を苦しめている。商工業は、復興工事が終わりに近くなり建築作業員が激減。商工業活動が停滞し、特に飲食業が減退してきた。住宅再建もピークを過ぎた。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
<p>「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<p>◆台風の被害で止まっている三鉄の復旧が早く進んで欲しい。買い物の移動に高齢者には非常に使いやすい交通機関だった。(39歳以下,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」「やや達成した」の合計が68.0%と、前回(74.3%)を6.3ポイント下回った。また、「あまり達成していない」「達成していない」の合計は6.4%と前回(4.3%)を上回った。

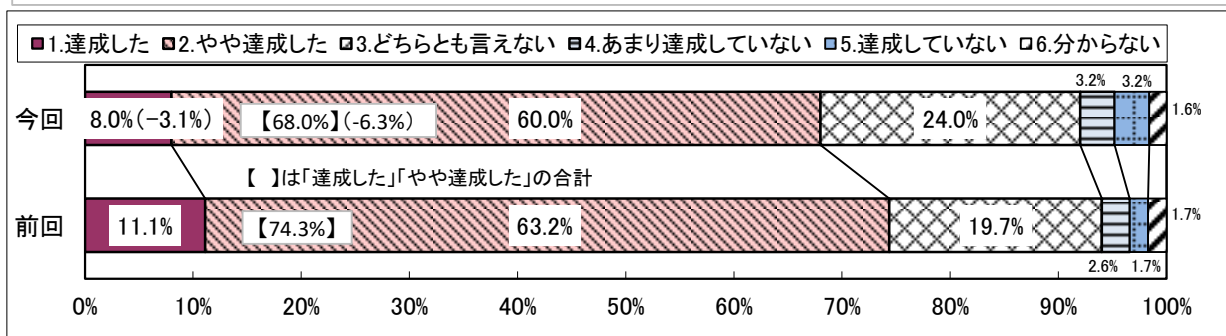
○地域別では、「達成した」「やや達成した」の合計は、沿岸北部で62.8%と前回(75.7%)を下回り、沿岸南部でも70.7%と前回(73.8%)を下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は7.9%と、前回(1.9%)から広がった。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が61.6%と、前回(74.3%)を12.7ポイント下回った。また、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は9.6%と、前回(2.6%)を上回った。

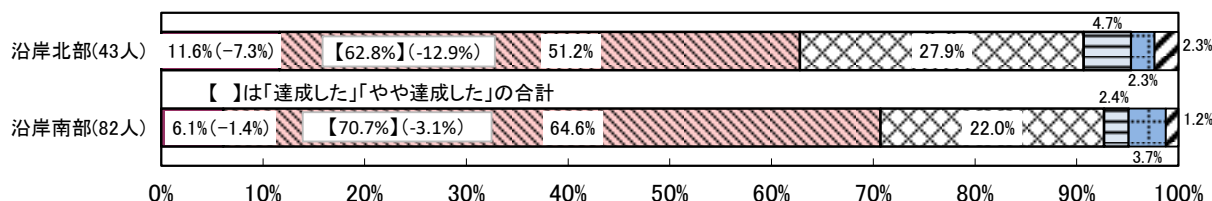
防潮堤等の整備状況を評価する声や、東日本大震災津波伝承館の開館による風化防止効果に期待する回答があるほか、津波被害だけでなく令和元年台風第19号災害の教訓を生かした今後の災害対策の必要性を訴える声もあった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

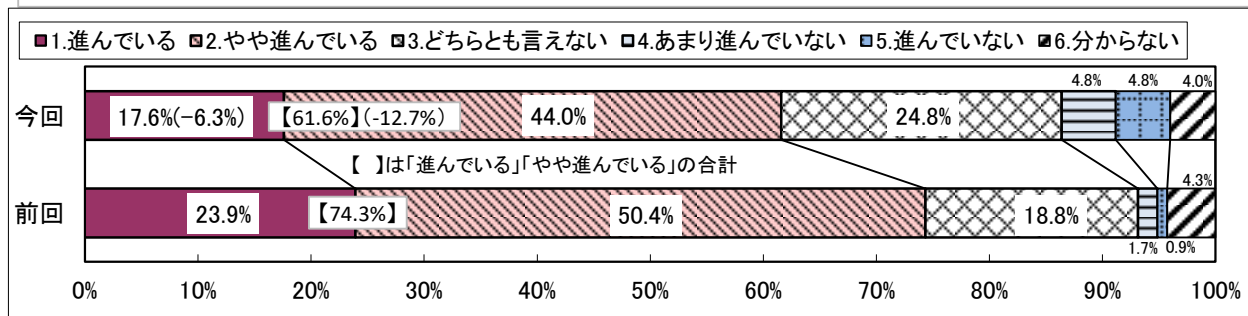


地域別

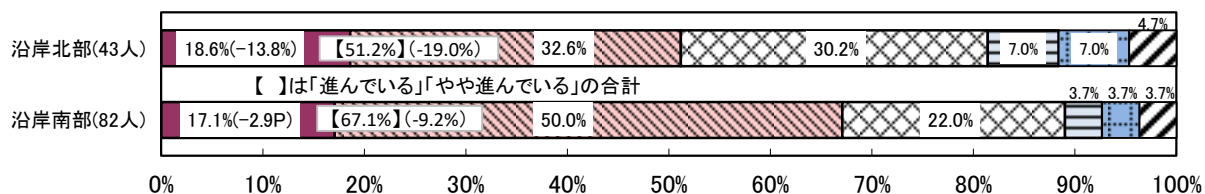


② 直近6ヶ月間(おおむね7月から1月まで)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆町中心部での再建を最初はためらっていた様だが、現在では次々と建ち進んできた。山手に住宅を再建し元地を手放した方も多く、他地区の方が多く再建しているほか、駐車場も多く見られる。今も再建が続けられており元の中心部が蘇ってきている。皆様の日々の生活も落ち着いてきたとみられる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆地域の防潮堤工事が着実に進んでいるため。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆巨大な防潮堤の建設が進んでいるが、あまりにも巨大なため海側から高台に避難することが震災以前より、逆に難しくなった。また有事が発生した際、障がい者の避難が大きな課題である。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤工事の全容が見えてきた。国道45号線の改修工事も終盤を迎えている。ただし、昨年の台風19号の集中豪雨は甚大な被害をもたらした。津波防波堤工事を施工したが、山津波対策が考慮なく、これの設計が課題となっている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤、水門工事は今現在も行われており、完成までまだ月日がかかると思う。海に近い所には住居はあまりないし、高く盛り土したり高い防潮堤が完成すると津波による災害が少なくなると思う。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆道路の整備、街の復興事業の区画整理で快適になったものの、地球温暖化、異常気象などによる想定以上の風水害による被害は課題であり対策を継続して行く必要がある。避難方法(高齢者等)、避難の時期、場所について日頃から周知する事を望む。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆津波で全壊した地域公民館が再建されていない。地域の繋がりが、防災・防犯に対して最も重要なのに、その拠り所となる公民館施設がない。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆津波や地震、また他の自然災害から身を守る等のセミナー、イベントなどが以前に増して活発になっている。学校現場での防災教育の取り組みは、子供だけでなく、地域の大人に与える影響は大きい。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆津波伝承館のオープンにより、震災を風化させずに市民が防災についての意識を持つことにつながった。ただし、私も含め、どうしても施設内を見ることのできない人も陸前高田にはまだまだ多くいる。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆道路開通のお陰でライフラインが確保されたような安心感がある。ただ、台風の被害にあった地域の復旧、今後の対策もこれからだと思うので、震災だけでなく様々な災害を想定したまちづくりが必要だと強く感じている。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆防潮堤は徐々に出来上がっているが、津波防災の為のみであり水害対策ではなく災害に強い安全なまちづくりとは何かと考えさせられる(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤がまだ完成していないので何かあったら大変だ。道の駅ができて人が集まっているのに安全に対してソフト面で不足していると思う。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆避難の呼びかけや、避難所の備えは進んだように感じるが、弱者救済や避難所へのペット持込の可否など住民側がもう少し踏み込んで考えるべきことも増えてきた気がする。(39歳以下,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆かなり進んでいると思うが、台風や大雨で被害にあったところをみると新たな課題が次々とみえてくる。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆津波対策の防潮堤は完成したが台風に対する対策は遅れており、東日本大震災、平成28年台風10号、令和元年台風19号と3回も被害にあった世帯もある。避難訓練やハザードマップの周知などのソフト面での対策と台風による内水氾濫へのハード面の対策が必要である。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p>
<p>「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<p>◆防潮堤は完成したものの、災害時を想定した訓練がまだに行われていない。自動閉鎖システムの説明、訓練がまったくない。自動閉鎖システムの受信室が低いところにあり、水没の恐れが充分ある。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p>

注1)「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3)掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数(DI)の推移

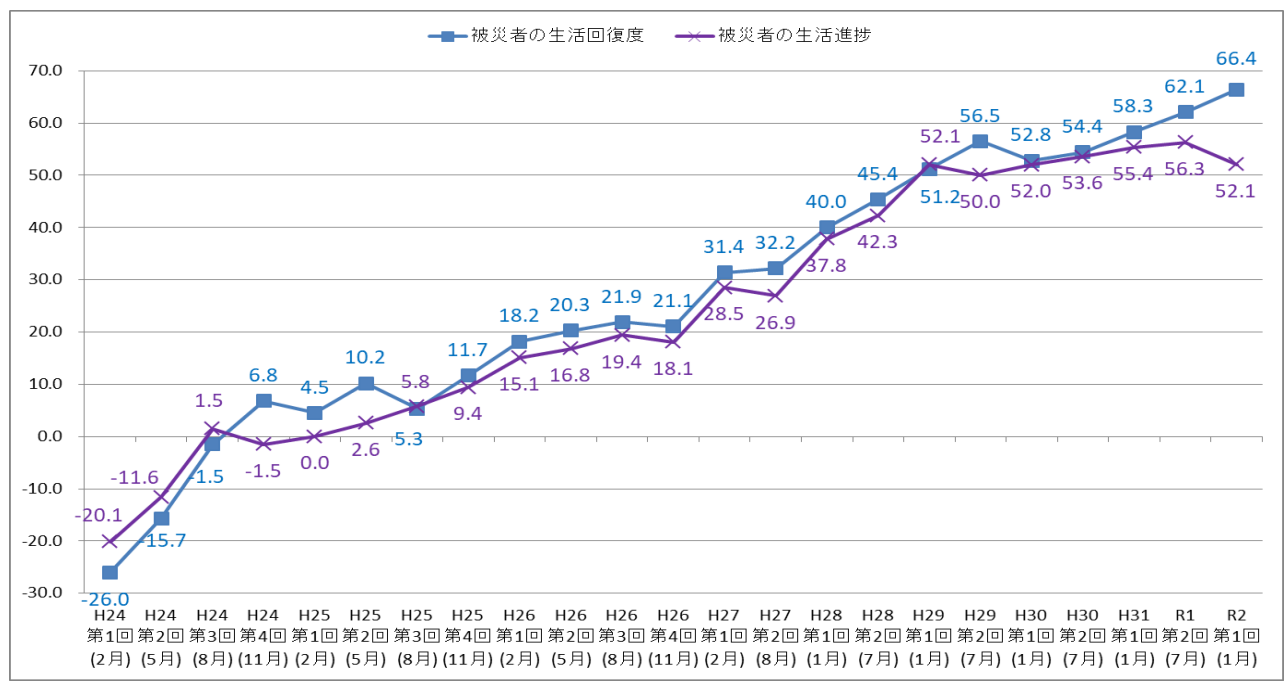
<動向判断指数(DI)>

掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数(DI)について時系列にその推移を表わしたものである。動向判断指数(DI)は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する。

$$\text{動向判断指数(DI)} = \{ (A \times 2 + B) - (D + E \times 2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

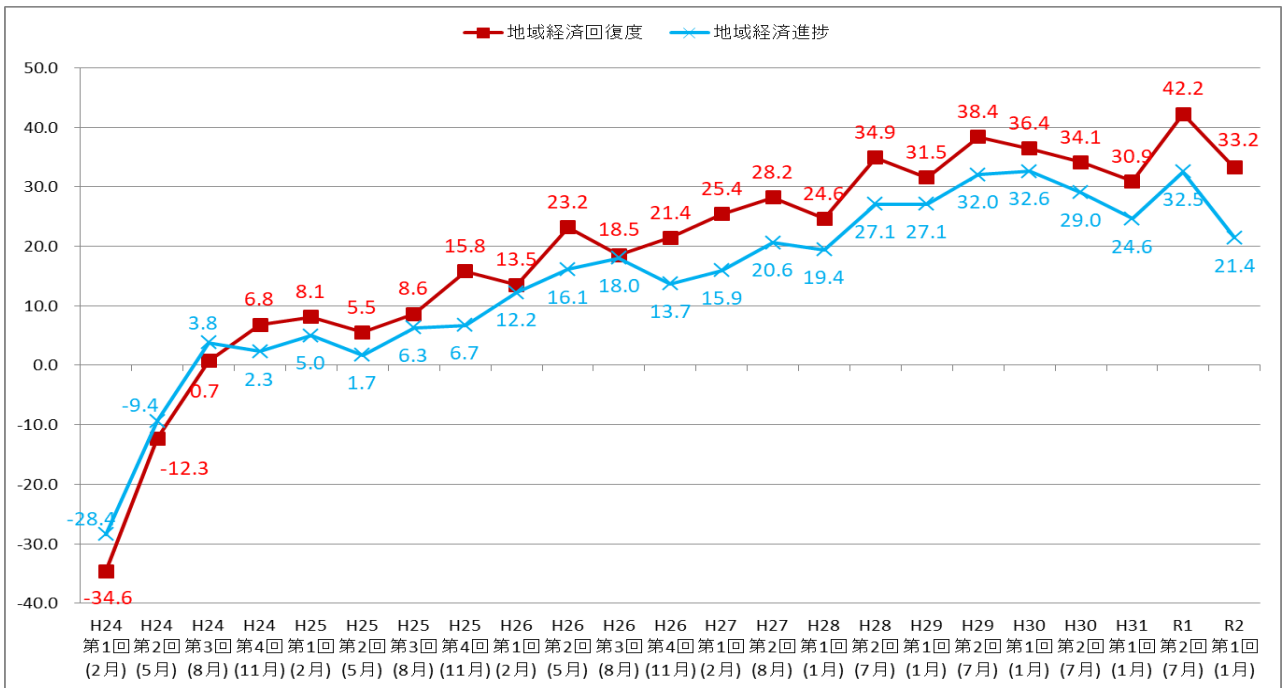
(注) 上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる(他の選択肢についても同様)。

【被災者の生活】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



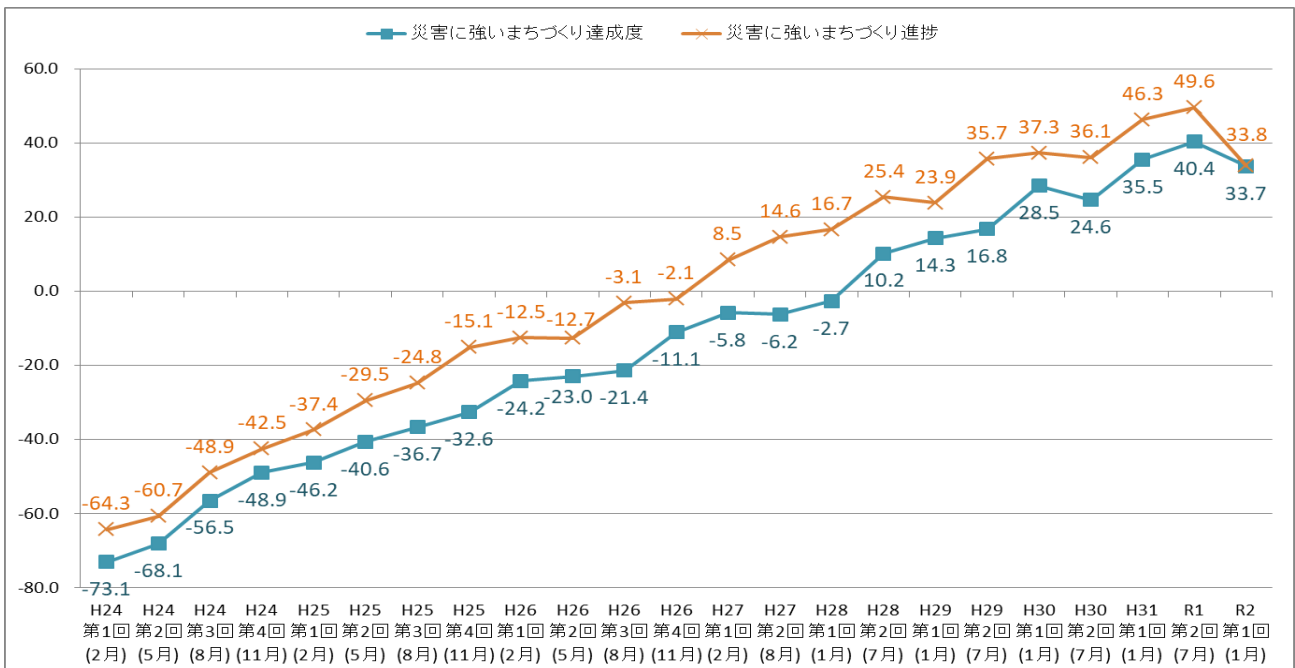
※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR1年7月～R2年1月)を指す。

【地域経済】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR1年7月～R2年1月)を指す。

【災害に強い安全なまちづくり】達成度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR1年7月～R2年1月)を指す。

令和2年【第1回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告

発行

令和2年2月19日

岩手県

復興局 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話 019-629-6945

ホームページ：岩手県震災復興の動き

<https://www.pref.iwate.jp/shinsaifukkou/fukkounougoki/index.html>